日本競馬の国際化に関する研究

The internationalization of the racing world in Japan

1K04B062-7　　川越　崇史

指導教員　　主査　志々田文明先生　　副査　杉山千鶴先生

はじめに

2007 年から日本は競馬のパートⅠ国として正式に承認されることが、2006 年に「国際セリ名簿基準委員会 」ICSC（ International Cataloguing Standards Committee）によって決定された。パートⅠ国昇格によって、日本の競馬は、イギリス・フランス・アメリカ等、現パートⅠ国の競走と同等の高い国際的価値を持つことになった。すなわち世界の競馬先進国の仲間入りを果たしたと同時に、日本競馬が国際化したともいえよう。しかし、率直にいって私には驚きであった。今までの日本の競馬界が、競馬先進国ではないという事実を突きつけられたからである。日本競馬はどのようにして生まれ、国際社会のなかで認知されてきたのか。これが私の研究の動機である。だが、調査をするにつれて、日本競馬の国際化に関してまとめた研究がこれまで少ないことに気づいた。そこで、以下の課題を設定した。

(1)　日本競馬界は、これまでどういった経緯を歩んできたのか。このことについては、近代競馬発祥の地であるイギリス競馬の歴史についても触れて考察することにした。

(2)　パートⅠ国昇格という国際化のために、これまでどのような取り組みをしてきたのか。

(3)　日本競馬が国際化するにあたって、日本競馬界はどうあるべきなのか。

1. イギリス近代競馬界の歴史と特徴

本論文では、「近代競馬＝競馬場で行われる競馬」と定義する。

近代競馬は、1540 年にイギリス・チェスターで始まった。その後、イギリス近代競馬界は、世界の近代競馬界の基礎となる組織やルール創っていく。イギリスに始まった、競馬事業の統括組織「ジョッキー・クラブ」や 3 歳 5 大競走、競馬成績書（レーシング・カレンダー）、血統書（ジェネラル・スタッド・ブック）が今日の日本競馬に影響を与えている。

2. 日本近代競馬界の歴史と現状

日本近代競馬は、文久元（1861）年春、居留民によって横浜で始まった。その後、馬券黙許時代→補助金競馬時代競馬倶楽部時代→日本競馬会時代→国営競馬時代→日本中央競馬会時代(以下、JRA と表記する)、と変遷していったのは、競馬施行団体と日本政府、あるいは GHQ と深い関わりがあったことを時系列で述べていく。

3. 競馬の国際化

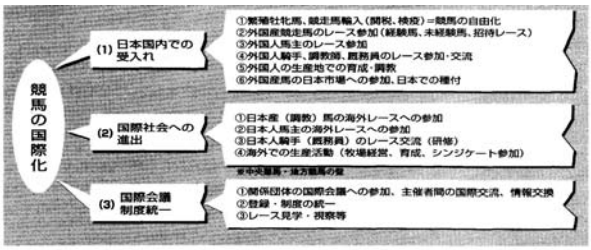

図1　岩崎徹（2005）『競馬社会をみると、日本経済がみえてくるー国際化と馬産地問題』P. 16 参照

『競馬社会をみると、日本経済がみえてくるー国際化と馬産地問題』（岩崎徹、2005、第 3 刷）によると、競馬の国際化は、(1)日本国内での受入れ、(2)国際社会への進出、(3)国際会議への参加・制度の統一、の3つの大きな要素を含んでいるという。 まず、岩崎が提示する表を基に「競馬の国際化」を要約する。そして「競馬の国際化」には、日本競馬界にとって日本の活馬のレベルが上がるメリットと、外国資本によって日本の生産地がなくなっていくのではないかというデメリットがあり、それらの“バランス”をとっていくことが「日本競馬の国際化」にとって重要であると考えられる。

おわりに

日本競馬の国際化に競馬ファンが期待するところは大きい。凱旋門賞に挑戦したディープインパクトに代表されるように、日本産馬が外国産馬に立ち向かう姿を観たいからである。しかし、それと同時に生産地がなくなるかもしれないという弊害もある。上述したが、これらの“バランス”をとっていくことが、日本競馬の国際化にとって重要である。その“バランス”の舵をとるのが JRA であり、JRA が今後どのように“バランス”をとっていくかが、日本競馬界の発展の鍵を担っているだろう。